

平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 11	公益目的事業 17
主査名	小早川悟 日本大学理工学部教授	
研究テーマ	路上の時間制限駐車区画の運用方法に関する研究**	
<p>わが国では都市部を中心に、パーキング・メーター（PM）やパーキング・チケット（PT）などの時間制限駐車区画規制により、合法的に路上への駐車が認められる区画が存在する。2016年2月現在、全国の都道府県公安委員会が実施している時間制限駐車区画規制は1,649区画存在し、その区画内にPMもしくはPTが23,273台設置されている。1971年の道路交通法改正で同法第49条において規定された駐車規制（時間制限駐車区画規制）であり、路外駐車施設の整備が十分でなく路上における短時間の駐車の需要が高いと認められる道路の部分について、当該部分における駐車秩序を確保する必要があるときは時間制限駐車区画の規制実施を検討することとされている。この時間制限駐車区画規制は、路外駐車施設の十分な整備が進むまでの暫定運用という原則があるが、本規制が制定された当初と比較すると、近年は乗用車の路外駐車施設の整備が着実に進んできている。実際に東京都特別区内の状況を見ると、多くの地区で駐車需要に対して路外駐車施設の収容台数が上回っているという報告もある。</p> <p>このような状況の中で、時間制限駐車区画は設置数を減らしていく方向にあるとともに、PMやPTについては、60分300円の駐車手数料を20分100円に変更して運用がなされる箇所も存在する。しかしこれらのPMやPTの設置により路上駐車実態がどのように変化するのかが明らかではないため、運用条件の異なるPMが設置された区画での駐車実態の把握や効果の測定は、今後の路上駐車施設のあり方を検討する上での重要な知見となりうる事が考えられる。</p> <p>そこで本研究では、路上に設置されている駐車施設の運用形態の整理を行い、その後に運用条件の異なる時間制限駐車区画でのドライバーの駐車行動に着目することにより、時間制限駐車区画の運用方法と今後の道路空間の効率的な利用の促進に向けた検討を行うことを目的とする。</p>		